

Asia Indicators

発表日: 2024年4月26日(金)

ニュージーランドは10ヶ月ぶりの貿易黒字に(Asia Weekly(4/22~4/26))

~台湾の3月統計は前年比でプラスだが、前月比はマイナスであるなど内容に注意~

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹(Tel:050-5474-7495)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
4/22(月)	(台湾)3月失業率(季調済)	3.40%	--	3.40%
	3月輸出受注(前年比)	+1.2%	+3.5%	▲10.4%
4/23(火)	(シンガポール)3月消費者物価(前年比)	+2.7%	+3.0%	+3.4%
	(台湾)3月鉱工業生産(前年比)	+3.99%	--	▲1.31%
	(香港)3月消費者物価(前年比)	+2.0%	--	+2.1%
4/24(水)	(ニュージーランド)3月輸出(億 NZドル)	65.0	--	58.0
	3月輸入(億 NZドル)	59.1	--	61.0
	(オーストラリア)3月消費者物価(前年比)	+3.5%	+3.4%	+3.4%
	(インドネシア)金融政策委員会(政策金利)	6.25%	6.00%	6.00%
4/25(木)	(韓国)1-3月実質GDP(前年比・速報値)	+3.4%	+2.4%	+2.2%
	(香港)3月輸出(前年比)	+4.7%	--	▲0.8%
	3月輸入(前年比)	+5.3%	--	▲1.8%
4/26(金)	(シンガポール)3月鉱工業生産(前年比)	▲9.2%	▲1.5%	+4.4%

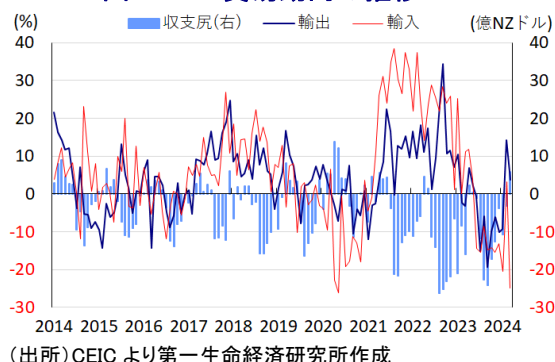
(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[ニュージーランド]~3月は内需の弱さを反映して輸入が下振れした結果、10ヶ月ぶりの貿易黒字に転じる~

24日に発表された3月の輸出額は前年同月比+3.8%となり、前月(同+14.3%)から伸びが鈍化している。前月比は▲3.0%と前月(同+8.9%)から3ヶ月ぶりの減少に転じるなど底入れの動きに一服感が出ているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底堅さがうかがえる。財別では、主力の輸出財である乳製品や肉類、木製品関連の輸出に軒並み下押し圧力が掛かったことが輸出全体の重石となっているものの、原油や果物などの輸出の堅調さが下支えする動きがみられる。国・地域別でも、最大の輸出相手である中国向けは底入れしているほか、ASEANなどアジア新興国向けに底堅さがうかがえるものの、隣国のオーストラリア向けや日本向けなどで力強さを欠く動きがみられる。一方の輸入額は前年同月比▲24.8%となり、前月(同+3.2%)から2ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じている。前月比は▲11.7%と前月(同+16.7%)から2ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きをみせているほか、中期的な基調も減少傾向に転じるなど頭打ちの動きを強めている。財別では、原油や石油製品関連の輸入に底堅い動きがみられるものの、電気機械関連や機械製品関連の輸入が下振れしているほか、日用品関連の輸入も幅広く頭打ちの動きを強めるなど、内需の弱さが輸入の足かせとなっている様子が

うかがえる。結果、貿易収支は+5.88億NZドルと前月（▲3.15億NZドル）から10ヶ月ぶりの黒字に転じている。

図1 NZ 貿易動向の推移



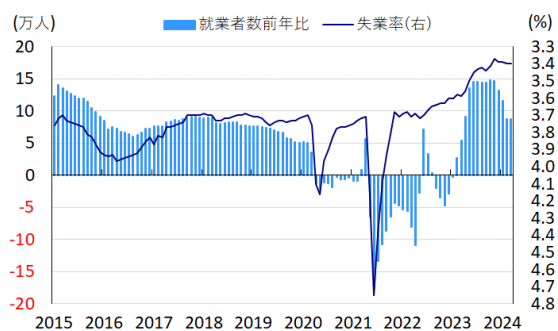
【台湾】～3月統計は軒並み前年を上回る伸びに転じるも、前月比は減少するなど底入れの動きに一服感～

22日に発表された3月の失業率（季調済）は3.40%となり、前月（3.40%）から2ヶ月連続の横這いで推移している。失業者数は前月比+0.1万人と前月（同+0.2万人）から2ヶ月連続で拡大しており、新卒者で減少する動きがみられる一方、既卒者を中心に拡大しているものの、自発的失業が拡大している様子がうかがえる。一方の雇用者数は前月比+1.6万人と前月（同+0.1万人）から拡大ペースが加速しており、中期的な基調も拡大傾向を強めるなど底入れの動きが進んでいる様子がうかがえる。サービス業や建設業における雇用は堅調な推移をみせているほか、製造業においても減少ペースが縮小するなど底打ちするなど、幅広い分野で雇用を取り巻く状況が改善している。さらに、雇用環境の好調さを反映して労働力人口も前月比+1.7万人と前月（同+0.3万人）から拡大ペースが加速しており、労働市場への参入意欲が改善している様子もうかがえる。

また、同日に発表された3月の輸出受注額は前年同月比+1.2%となり、前月（同▲10.4%）から2ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じている。ただし、前月比は▲1.31%と前月（同▲1.08%）から2ヶ月連続で減少しており、底入れの動きに一服感が出ている様子がうかがえる。財別では、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連を中心に堅調な動きがみられる一方、鉱物資源関連や化学製品関連の弱さが全体の重石となっている。国・地域別でも、最大の輸出相手である中国本土向けが大きく底入れしている一方、米国向けやASEANなどアジア新興国向けの弱さが全体の重石となっている。

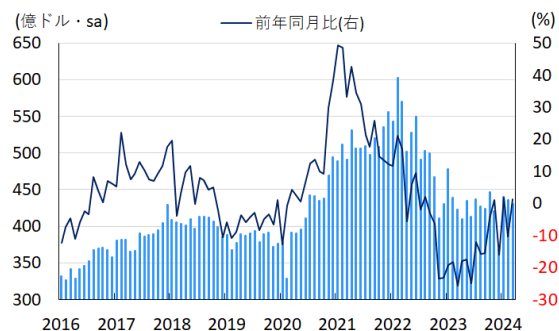
23日に発表された3月の鉱工業生産は前年同月比+3.99%となり、前月（同▲1.31%）から2ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じている。前月比も▲0.84%と前月（同+3.33%）から3ヶ月ぶりの減少に転じており、底入れの動きに一服感が出ている。分野別では、石油・石炭製品関連の生産に下押し圧力が掛かる動きがみられるものの、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連や電気機械関連のほか、化学製品関連や食料品関連、縫製品関連など幅広い分野で生産が堅調な推移をみせている。

図2 TW 雇用環境の推移



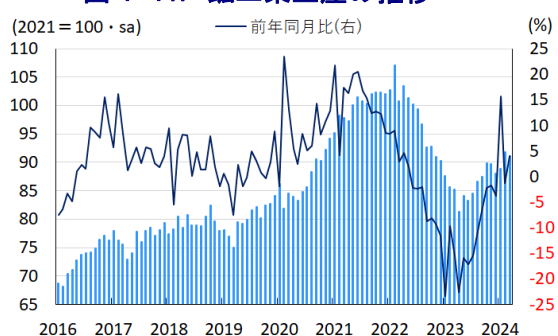
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図3 TW 輸出受注の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図4 TW 鉱工業生産の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

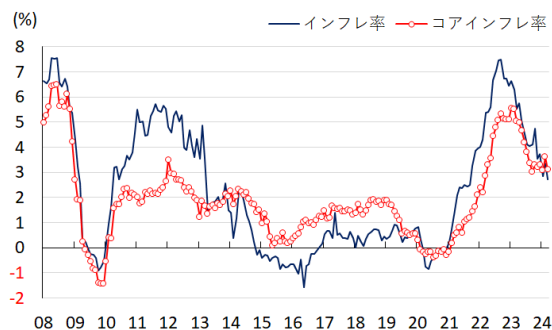
【シンガポール】～食料品や財価格に下押し圧力が掛かる一方、輸出関連産業を中心に生産に下押し圧力～

23日に発表された3月の消費者物価は前年同月比+2.7%となり、前月（同+3.4%）から鈍化して2021年9月以来の伸びとなっている。前月比も▲0.10%と前月（同+1.05%）から2ヶ月ぶりの下落に転じており、中東情勢を巡る不透明感の高まりを受けた国際原油価格の底入れの動きを反映してエネルギー価格は上昇傾向を強める一方、生鮮品を中心とする食料品価格の上昇の動きに一服感が出る動きが確認されるなど、生活必需品を巡る物価の動きはまちまちの様相をみせている。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+3.12%と前月（同+3.62%）から鈍化しており、2ヶ月ぶりの伸びとなっている。前月比も▲0.24%と前月（同+0.50%）から13ヶ月ぶりの下落に転じており、エネルギー価格の上昇にも拘らず輸送コストに下押し圧力が掛かるとともに、通貨SGドルの実質実効為替レートの上昇による輸入インフレ圧力の後退も重なり、幅広く財価格に下押し圧力が掛かる動きがみられる一方、サービス物価に上昇圧力がくすぶるなど物価を巡る動きはまちまちの状況にある。

26日に発表された3月の鉱工業生産は前年同月比▲9.2%となり、前月（同+4.4%）から3ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じている。前月比も▲16.04%と前月（同+14.62%）から2ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きをみせるとともに、中期的な基調も減少傾向に転じるなど頭打ちの動きを強めている。同国においては月ごとのバイオ・医薬品関連の生産が上下に振れるとともに、生産全体の同行を左右する傾向があるなか、当月は前月比▲18.38%と前月（同+4.56%）から3ヶ月ぶりの減少に転じている。なお、バイオ・医薬品関連を除いたベースでも前月比▲8.67%と前月（同+10.38%）から2ヶ月ぶりの減少に転じており、精密機械関連をはじめとする機械製品関連の生産は堅調な動きをみせて

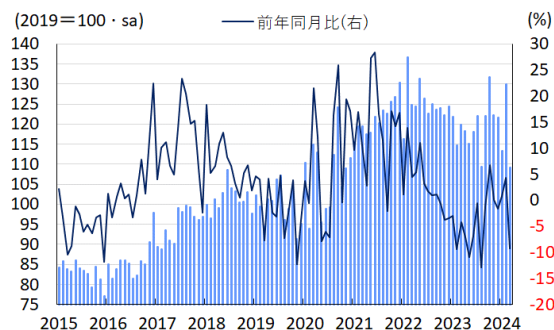
いるほか、食料品関連や縫製品関連の生産も底堅い動きをみせているものの、半導体をはじめとする電子部品関連のほか、化学製品関連など主力の輸出関連産業で軒並み生産に下押し圧力が掛かる動きがみられるなど、幅広く頭打ちしている様子がうかがえる。

図5 SG インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図6 SG 鉱工業生産の推移



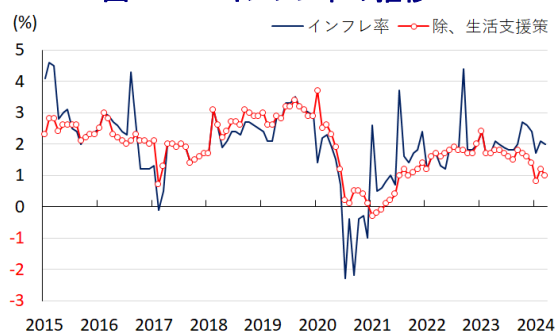
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[香港]～生活必需品の物価の動きはまちまちながら、サービス物価を中心に下押し圧力が掛かる展開が続く～

23日に発表された3月の消費者物価は前年同月比+2.0%となり、前月(同+2.1%)からわずかに伸びが鈍化している。前月比は+0.00%と前月(同+0.41%)から上昇ペースが鈍化しており、国際原油価格の底入れの動きを反映してエネルギー価格に上昇圧力が掛かる一方、生鮮品をはじめとする食料品価格は下落に転じるなど、生活必需品を巡る物価の動きはまちまちの様相を呈している。なお、香港では2007年以降断続的に公営住宅を対象とする賃料減免措置をはじめとする生活支援策が実施されており、その影響を除いたベースでも前年同月比+1.0%と前月(同+1.2%)から伸びが鈍化している。前月比も+0.09%と前月(同+0.37%)から上昇ペースが鈍化しており、エネルギー価格の上昇を反映して輸送コストに押し上げ圧力が掛かっていることを受けて幅広く財価格が押し上げられている一方、サービス物価に下押し圧力が掛かるなど物価の動きはまちまちの様相をみせている。

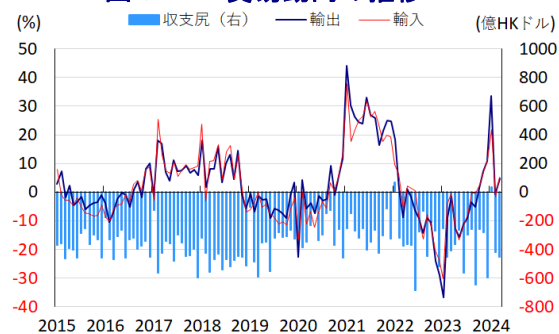
25日に発表された3月の輸出額は前年同月比+4.7%となり、前月(同▲0.8%)から2ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じている。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は4ヶ月ぶりの減少に転じるなど、底入れの動きに一服感が出ている。財別では、主力の輸出財である電気機械関連や機械製品関連などで堅調な動きがみられる一方、食料品や縫製品など軽工業関連の輸出は力強さを欠くなど対照的な動きをみせている。一方の輸入額は前年同月比+5.3%となり、前月(同▲1.8%)から2ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じている。しかし、前月比は2ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きをみせている上、中期的な基調も減少傾向に転じるなど力強さを欠く動きが続いている。財別では、機械製品関連の輸入に堅調な動きがみられるものの、化学製品関連や鉱物資源関連などの輸入は力強さを欠く推移をみせるとともに輸入全体の重石となっている。結果、貿易収支は▲450.12億HKドルと前月(▲416.51億HKドル)から赤字幅が拡大している。

図7 HK インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図8 HK 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。